

## [010] 言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/5482>

---

出版情報：言語文化論究. 10, 1999-03-01. 九州大学言語文化部  
バージョン：  
権利関係：

## 個人研究業績一覧

(1997年11月～1998年10月)

〈言語科学系〉

言語科学部門

江口 巧

—「新聞英語における語用論的指示表現」『言語科学』第33号, pp.69-80, 九州大学言語文化部言語研究会, 1998年2月。(論文・単著)

鈴木 右文

—「CALLシステムによる外国語教育とその諸問題—新規導入した九州大学の場合—」『言語文化論究』No.9, pp.161-172, 九州大学言語文化部, 1998年3月。(論文・単著)

—“On the Distribution of *who/whom*”『言語科学』第33号, pp.19-42, 九州大学言語文化部言語研究会, 1998年2月。(論文・単著)

—「CALL教室におけるコンピュータのセキュリティについて—九州大学を例に—」『英語英文学論叢』第48集, pp.1-16, 九州大学英語英文学研究会, 1998年2月。(論文・単著)

—「*who* と *whom* の分布を巡って」1997年度第6回福岡言語学会 於：福岡大学セミナーハウス, 1998年3月。(口頭発表・単独)

—“*θ*-raising and the Elimination of Empty Categories”1998年度第1回福岡言語学会 於：西南学院大学, 1998年4月。(口頭発表・単独)

恒川 元行

—「*vertrauen* における3格補足語と *auf*+4格補足語の競合について」『独仏文学研究』第48号, pp.39-56, 九州大学独仏文学研究会, 1998年7月。(論文・共著)

—「コーパスを用いた語法論的結合分析」第52回日本独文学会春季研究発表会シンポジウム「コーパスを用いた新しいドイツ語研究の方向性」

於：中央大学, 1998年6月。(口頭発表・単独)

田畑 義之

—「CALL教室と初習外国語教育—可能性と問題点—」『言語科学』第33号, pp.119-128, 九州大学言語文化部言語研究会, 1998年2月。(論文・単著)

—“*Deutschunterricht mit dem Notebook-Computer*”『独仏文学研究』第48号, pp.29-38, 九州大学独仏文学研究会, 1998年7月。(論文・単著)

—「普通教室でのコンピューターの利用法」日本独文学会1997年度秋季研究発表会 於：沖縄国際大学, 1997年12月。(口頭発表・単独)

山村ひろみ

—「*canté* 形, *cantaba* 形と時間的限定性」*HISPANICA* 第41号, pp.53-66, 日本イスペインヤ学会, 1997年12月。(論文・単著)

—「*pretérito* による表出のための条件—無生主語文の場合—」『言語文化論究』No.9, pp.185-207, 九州大学言語文化部, 1998年3月。(論文・単著)

—「Smith (1991) のアスペクト理論とスペイン語の *pretérito*」『独仏文学研究』第48号, pp.135-150, 九州大学独仏文学研究会, 1998年7月。(論文・単著)

—「点過去形と線過去形の不思議」1998年度 NHK テレビスペイン語会話テキスト7月号, pp.76-79, 1998年6月。(その他・単著)

—“*Verbos de movimiento y varios factores que deciden sus tipos de situación*”関西スペイン語学研究会 於：神戸市立外国語大学, 1998年4月。(口頭発表・単独)

—「*durante/por/φ*+期間名詞句と *canté* 形, *cantaba* 形の関係」第18回日本スペイン語学セミナー (SELE98) 於：上智大学軽井沢セミナー

ハウス, 1998年8月。(口頭発表・単独)

歴史言語学部門

田島 松二

—“The gerund in Chaucer, with special reference to its verbal character”, *English Historical Linguistics and Philology in Japan*, ed. by Jacek Fisiak and Akio Oizumi (Berlin & New York: Mouton de Gruyter), pp.323-339, 1998年8月。(論文・単著)

—「[「アメリカン・ドリーム」の初出年代について] *The Kyushu Review* 第3号, pp.33-39, 九州大学「九州レビュー」の会, 1998年10月。(論文・単著)

新保 弼彬

—“Goethes frühe Briefe und der Briefroman “Werther”-Eine computergestützte Studie zum Wortschatz der Frömmigkeit”『ゲーテ年鑑』第40巻, pp.69-83, 日本ゲーテ協会, 1998年10月。(論文・単著)

田中 俊也

—「CAN をめぐる問題」『日本中世英語英文学会会報(MES JAPAN NEWS)』28号, pp.3-4, 1998年10月。(その他・単著)

西山 猛

—「竹簡帛書の語言、文学資料価値」『言語科学』第33号, pp.59-67, 九州大学言語文化部言語研究会, 1998年2月。(論文・単著)

応用言語学部門

松村 瑞子

—『キャンパス英和辞典』, 講談社, 1998年1月。(その他・共著)

—「日本語談話におけるスタイル交替の実態とその効果」『言語科学』第33号, pp.109-118, 九州大学言語文化部言語研究会, 1998年2月。(論文・共著)

大津 隆広

—“The Reference-point Properties of English Possessive Genitives”『言語科学』第33号, pp.1-18, 九州大学言語文化部言語研究会, 1998年2月。(論文・単著)

井上奈良彦

—「日本人のコミュニケーションにおける「議論」」日本コミュニケーション学会九州支部第5回大会 於：西南女学院短期大学, 1998年10月。(口頭発表・単独)

Kasjan, Andreas

—“Deutschunterricht unter erschwerten Bedingungen: Grammatik als Risiko und Chance” *Deutsch als Fremdsprache* 3, pp. 168-171, Herder-Institut, Universität Leipzig, 1998年9月。(論文・単著)

—“Semantisierung, Grammatik, Kommunikation”日本独文学会1997年秋季研究発表会於：沖縄国際大学, 1997年12月。(口頭発表・単独)

—“Die bilinguale Methode in Deutsch I und II”日本独文学会西日本支部ドイツ語教育部会第4回研究発表会於：大分大学, 1998年7月。(口頭発表・単独)

高橋 里美

—“Quantifying Requestive Imposition: Validation and Selection of Situations for L2 Pragmatics Research”『言語文化論究』No.9, pp.135-159, 九州大学言語文化部, 1998年3月。(論文・単著)

—“Information Processing vs. Analysis/Control Approaches: Critical Review of the Two Cognitive Approaches to Second Language Learning”『言語科学』第33号, pp.43-58, 九州大学言語文化部言語研究会, 1998年2月。(論文・単著)

—“Instructional Effects on Development of IL Request Realization Competence” The 3rd

Pacific Second Language Research Forum  
於：青山学院大学，1998年3月。（口頭発表・単  
独）

#### <言語文化系>

アジア・アフリカ言語文化部門

岩佐 昌暉

- 『詩刊(1957-1964)総目録・著訳者名索引』，中  
国書店，1997年12月。（著書・共著）
- 「一只被折断翅膀の鳥—『詩刊』的七年」『詩刊  
(1957-1964) 総目録・著訳者名索引』，pp.4-  
15，中国書店，1997年12月。（論文・単著）
- 「西村明『環黄海経済圏交流への視座—九州か  
らの発信』」『東方』208号，pp.20-23，東方書  
店，1998年2月。（書評・単著）
- 「胡適」『実践論』『矛盾論』『毛沢東』『岩波哲  
学・思想辞典』，岩波書店，1998年3月。（辞書  
項目・単著）
- 「『『今天』覆刻版』」『中国図書』108号，pp.7-  
9，内山書店，1998年3月。（その他・単著）
- 「市場経済下の中国文学」『西日本新聞』1998年  
10月17日付。（その他・単著）
- 「中国現代文学にみるアジア的価値観」日韓東  
アジア学会合同会議 於：大韓民国安東文化会  
館，1998年8月。（口頭発表・単独）

板橋 義三

- “Are the Old Japanese Personal Pronouns  
Genetically Related to Those of the Altaic  
Languages ? ”, *Acta Orientalia*, Tomus L.  
Fasciculi 1-3, pp.117-146, 1997年。（論文・単  
著）。
- 「古代日本語・古代琉球語の対格接語について  
—その2：比較方法による比較」『言語科学』第  
33号，pp.81-108，九州大学言語文化部門言語研究  
会，1998年2月。（論文・単著）
- 「古代日本語・古代琉球語の対格接語の形成に  
ついて—その1：日本〔・琉球〕祖語の復元」  
『言語文化論究』No.9, pp.209-223，九州大学言

語文化部，1998年3月。（論文・単著）

- 「アイヌ語の接辞 i/si と古代日本語の接辞名詞  
i/si の同源性について」『比較社会文化』第4  
巻，pp.99-118，九州大学比較社会文化研究科，  
1998年3月。（論文・単著）
- “The Old Japanese Personal Pronouns as an  
Etymological Problem”, *Urasian Studies  
Yearbook*, No.70, pp.123-154, 1998年3月。（論  
文・単著）
- “Old Japanese i/si and Old Korean i/si”  
Permanent International Altaistic Confer-  
ence 於：マサラ フィンランド，1998年7月。  
（口頭発表・単独）

欧米言語文化部門

山内 正一

- 「霧の季節」と「豊饒の季節」と——『秋へ寄  
せる』論』『イギリス・ロマン派研究』22号，pp.  
51-59，日本イギリス・ロマン派学会，1998年3  
月。（論文・単著）
- 「プロト・エコロジストとしてのイギリス・ロ  
マン派——ワーズワスを中心に」日本英文学会  
第51回九州支部大会シンポジウム於：九州産業  
大学，1998年10月。（口頭発表・単独）

藤崎 睦男

- 「ファンストーン将軍の弁護」（マーク・トウェ  
イン著）『言語文化論究』No.9, pp.225-235，九州  
大学言語文化部，1998年3月。（翻訳・単著）

太田 一昭

- 「英国ルネサンス演劇と出版統制」『英語英文学  
論叢』第48集，pp.17-43，九州大学英語英文学研  
究会，1998年2月。（論文・単著）
- 「餐宴局長と後期英国ルネサンス演劇の検閲・  
認可」『言語文化論究』No.9, pp.51-64，九州大  
学言語文化部，1998年3月。（論文・単著）

棚瀬 明彦

- 「ヘルダーリンの『エンペドクレスの死』に

- おける「Ich」-「Ich」の消滅による新たな「Er」の獲得?』『私という記号』(岡野進編), pp.49-66, 九州大学出版会, 1998年2月。(論文・単著)
- 「簡易テキスト・データベース: ヘルダーリン「書簡集」』『独仏文学研究』第48号, pp.69-75, 九州大学独仏文学研究会, 1998年7月。(論文・単著)

#### 恒吉 法海

- 「ジャン・パウロと自我の構造」『私という記号』(岡野進編), pp.67-86, 九州大学出版会, 1998年2月。(論文・単著)
- 「ジャン・パウロの生涯」(ギュンター・デ・ブロイン著), 九州大学出版会, 1998年4月。(翻訳・解説)

#### 岡野 進

- 『私という記号』九州大学出版会, 1998年2月。(著書・編)
- 「Internet-Beingのためのノート」『独仏文学研究』第48号, pp.57-67, 九州大学独仏文学研究会, 1998年7月。(論文・単著)

#### 高藤 冬武

- 「バンジャマン・コンスタン=シャリエール夫人書簡(6)」ROMANDIE 20号, pp.14-20, スイス・ロマンド研究会, 1997年12月。(翻訳・単著)
- 「バンジャマン・コンスタン『日記』(IX)」『独仏文学研究』第48号, pp.109-133, 九州大学独仏文学研究会, 1998年7月。(翻訳・単著)

#### 小谷 耕二

- 「アレン・テイト『父祖たち』と歴史の「深淵」」『言語文化論究』No.9, pp.39-49, 九州大学言語文化部, 1998年3月。(論文・単著)
- “Studies of Southern Literature of America in Japan, 1997”『北九州大学文学部紀要』56号, pp.1-29, 1998年7月。(その他・共著)

#### 谷口 秀子

- 「手段としての笑いと認識—The Pyramid 論」『ウィリアム・ゴールディングの視線—その作品世界—』(吉田徹夫, 宮原一成編著), pp.128-146, 開文社出版, 1998年6月。(論文・単著)

#### 比較言語文化部門

##### 有村 隆広

- 「安部公房の最初の作品集「壁」—フランツ・カフカとルイス・キャロルの影響」『言語文化論究』No.9, pp.19-38, 九州大学言語文化部, 1998年3月。(論文・単著)
- 「カフカ最後の作品「歌姫ヨゼフィーネ, またはねずみ族—文学することの限界」」『独仏文学研究』第48号, pp.77-90, 九州大学独仏文学研究会, 1998年7月。(論文・単著)

##### 青山 太郎

- 「ロシアの性愛論(IV). ローザノフ(1)」『言語文化論究』No.9, pp.81-94, 九州大学言語文化部, 1998年3月。(論文・単著)

##### 高橋 勤

- 「屋久杉とウオールデン—高田宏とヘンリー・ソロー」『文学と環境』創刊号, pp.60-67, ALSE/JAPAN 文学環境学会, 1998年10月。(論文・単著)
- “Conservation Movement and its Literature in Japan” *The Literature of Nature: An International Sourcebook* ed. Patrick Murphy, Fitzroy Dearborn Publishers, pp.290-293, 1998年。(論文・共著)

##### Michel, Wolfgang

- 「異文化との出会い—オランダ・カピタンとの「謁見」について」『洋学史研究』15号, pp.1-11, 日本洋学史学会, 1998年4月。(論文・単著)
- 「ヨーロッパに Moxa (もぐさ) を紹介したパタビアの牧師—ヘルマン・ブショフの生涯と著作について」『日蘭学会誌』23巻1号, pp.47-63, 日蘭学会, 1998年10月。(論文・単著)

- 「カスバル・シュマルカルデンの旅行記に見る日本」日本洋学史学会於：東京，1998年6月。（口頭発表・単独）
- “Engelbert Kaempfer und Imamura Gen’emon - Versuch einer Bestimmung”ドイツ東亜研究協会於：神戸，1998年9月。（口頭発表・単独）
- “Caspar Schamberger - Wirken und Wirkung in Ost und West”ドイツ東亜研究協会於：東京，1998年9月。（口頭発表・単独）
- 「古医書に見られる身体図」日本医史学会福岡地方会 於：福岡，1998年10月。（口頭発表・単独）
- 「膏薬から人体解剖へ—蘭学における河口家の功績とその位置づけ」古河歴史博物館 於：古河，1998年11月。（口頭発表・単独）
- Rawlings, Peter
- “Shakespeare Migrates to America”, *The Kyushu Review* 第2号, pp.77-89, 1997年10月。（論文・単著）
- “Pater, Wilde, and James: ‘The Reader’s Share of the Task’”『英語英文学論叢』第48集, pp.45-64, 九州大学英語英文学研究会, 1998年2月。（論文・単著）
- “Resisting Death: Henry James’s ‘The Art of Fiction’”『言語文化論究』No.9, pp.93-114, 九州大学言語文化部, 1998年3月。（論文・単著）
- “A Review of Dreiser’s ‘Jennie Gerhardt’: *New Essays on the Restored Text* (Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 1995), edited by James L.W. West III”, *Overhere: A European Journal of American Culture*, 17, pp.258-259, 1997年2月。（書評・単著）
- “A Review of Don Florence, *Persona and Humor in Mark Twain’s Early Writings* (Columbia and London: University of Missouri Press, 1995)”, *Journal of American Studies* 31, pp.468-469, 1997年12月。（書評・単著）
- “A Review of Julie Rivkin, *False Positions: The Representational Logics of Henry James’s Fictions* (Stanford, Ca.: Stanford University Press, 1996)”, *Henry James Review*, pp.109-111, 1998年3月。（書評・単著）
- “A Review of *Studies in the American Renaissance: 1995* (Charlottesville, Virginia: University Press of Virginia, 1995)”, edited by Joel Myerson, *Journal of American Studies*, 32, pp.138-140, 1998年6月。（書評・単著）
- “A Review of Sara Blair, *Henry James and the Writing of Race and Nation* (Cambridge: Cambridge University Press, 1996)”, *Journal of American Studies* 32, pp.190-191. 1998年6月。（書評・単著）
- “Intimate Appreciations’, a review of John H. Pearson, *The Prefaces of Henry James: Framing the Modern Reader* (Pennsylvania: Pennsylvania University Press, 1997)”, *Essays in Criticism* 68, pp.284-290, 1998年4月。（書評・単著）
- “A Review of Elizabeth Brayer, *George Eastman: A Biography* (Baltimore and London: Johns Hopkins University Press, 1996)”, *Journal of American Studies* 32, pp.346-347, 1998年12月。（書評・単著）
- “Henry James and American Configurations of Shakespeare” The British Association for American Studies Annual Conference, 於：Norwich 連合王国, 1998年4月。（口頭発表・単独）
- “Henry James’s “The Birthplace” and the Second War of American Independence”九州アメリカ文学会第44回大会 於：福岡女子大学, 1998年5月。（口頭発表・単独）
- “America and *The Tempest*: Auguries of Evil” 福岡シェイクスピア研究会 於：九州大学言語文化部, 1998年6月。（口頭発表・単独）
- “Shakespeare in America and his Role in

American Mythology” Faculty of Arts  
Research Conference 於：サザン・クイーンズ  
ランド大学 オーストラリア, 1998年8月。(口  
頭発表・単独)

福元 圭太

- 「鏡と自伝—『詐欺師フェーリックス・クルルの告白』におけるセクシュアリティの問題—」  
『私という記号』(岡野進編), pp.151-184, 九州  
大学出版会, 1998年2月。(論文・単著)
- 「文学と遊び—トーマス・マン文学を中心に—」  
『言語文化論究』No.9, pp.1-17, 九州大学言語  
文化部, 1998年3月。(論文・単著)
- 「エロスの軌跡 (5)—ハンス・ブリューアーを

読むトーマス・マン (1)』『独仏文学研究』第48  
号, pp.91-108, 九州大学独仏文学研究会, 1998  
年7月。(論文・単著)

言語芸術部門

津村 正樹

- 「ハンス・アイスラーの『ヨハン・ファウスト  
ゥス』を巡る論争」『私という記号』(岡野進編)  
所収, 九州大学出版会, 1998年2月。(論文・単  
著)
- 「「ファウストゥス」論争の意味するもの」東ド  
イツ文学会総会 於：KKR ホテル東京, 1998  
年6月。(口頭発表・単独)